

平成23年度

消費生活に関する意識アンケート①集計結果報告

1 調査趣旨

市民の消費生活に関する意識を調査し、今後の市の事業組み立てや、啓発活動に活用する。

2 調査事項

- I. 「食」について
- II. 船橋の農水産物について
- III. 消費と流通について
- IV. エコライフについて

3 回答者数

447名

4 調査時期

平成23年度5月～7月

5 回答者プロフィール

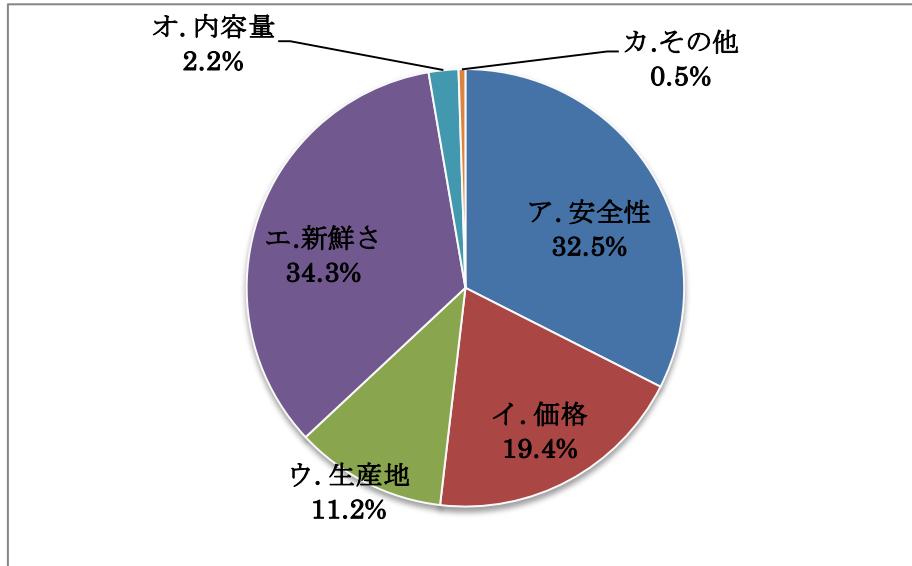
性別		
男性 84名(18.8%)	女性 352名(78.7%)	未回答 11名(2.5%)
年齢構成		
20・30歳代	94名 (21.0%)	
40・50歳代	148名 (33.1%)	
60歳以上	196名 (43.9%)	
未回答	9名 (2.0%)	

船橋市経済部消費生活課
TEL 047-436-2482

I 「食」について

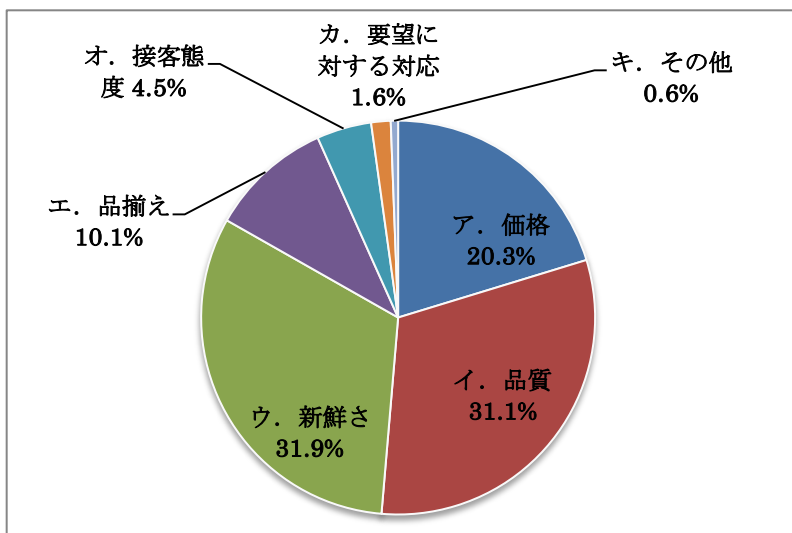
問1

あなたが生鮮食料品を購入するとき、とくに重視するものは何ですか？
(上位2個まで)



問2

あなたが生鮮食料品を購入するとき、小売店舗に対して重視することは何ですか？
(上位2個まで)



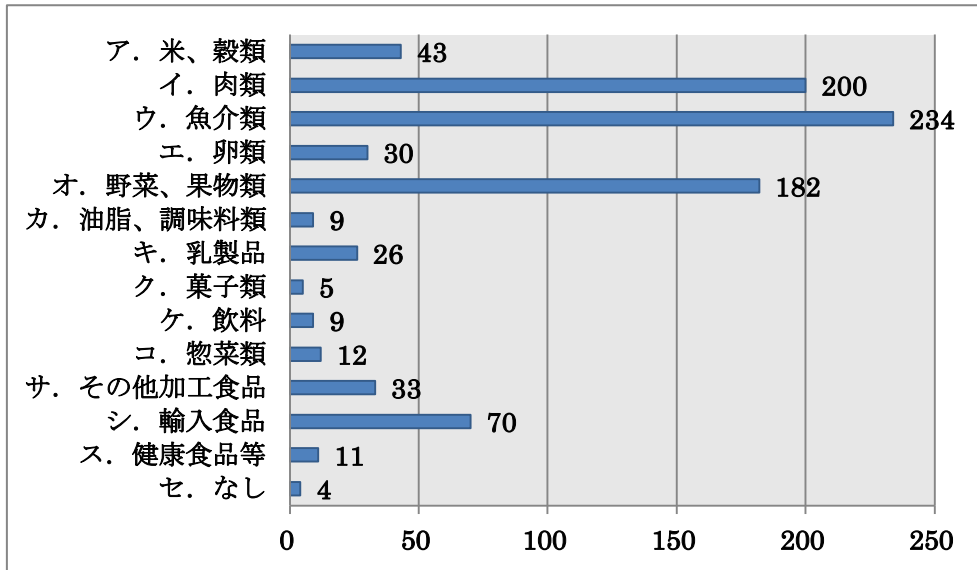
その他

・店の衛生状態

問3

あなたが、安全性についてとくに関心を持っている食品はどれですか？

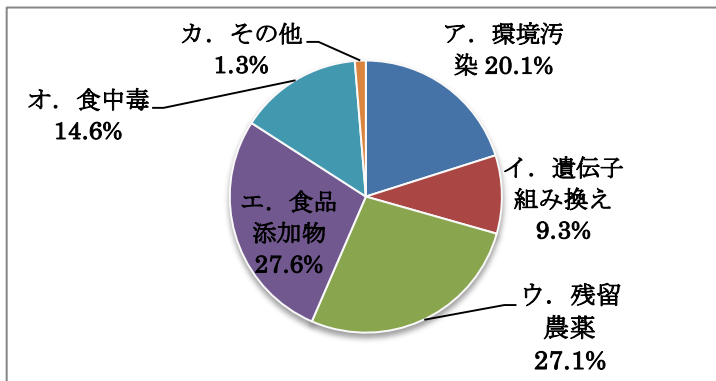
(上位 2 個まで)



問4

あなたは、食品の安全性に関しどのようなことに不安を感じますか？

(上位 2 個まで)

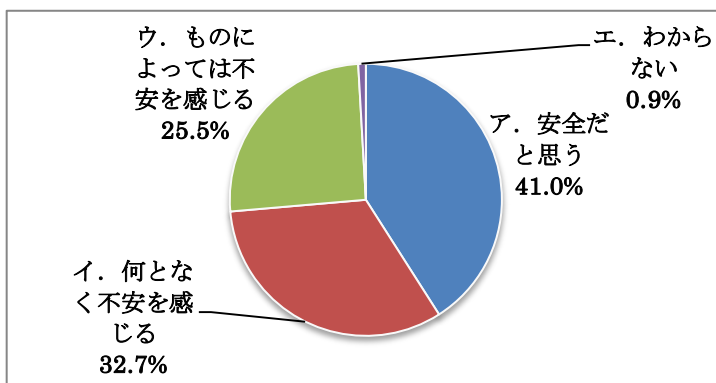


その他

- ・放射能(9)
- ・期限、表示の偽装(3)

問5

国内農産物（生鮮食品）の安全性についてどのように感じていますか？

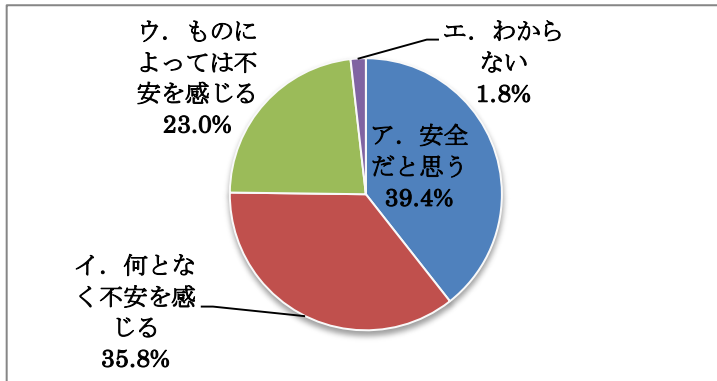


不安を感じる主な事柄

- ・放射能(肉、魚、野菜等)(28)
- ・農薬(9)
- ・偽装(生産地、期限等)(9)
- ・法の整備が整っていないもの(ユッケなど)(1)

問6

国内加工食品の安全性についてどのように感じていますか？

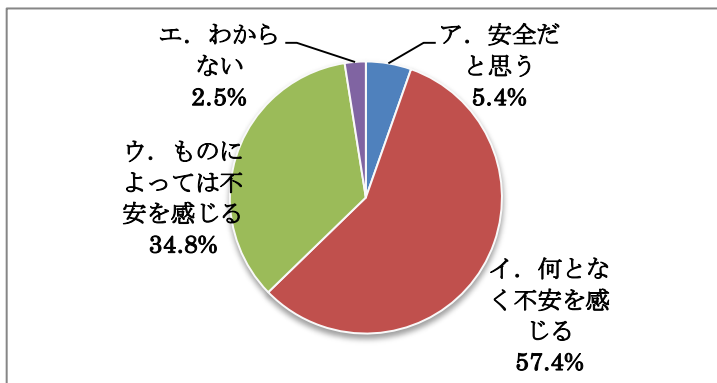


不安を感じる主な事柄

- ・添加物(12)
- ・原材料が不明(10)
- ・生産工程が不明(3)

問7

輸入食品（生鮮、加工食品）の安全性についてどのように感じていますか？



不安を感じる主な事柄

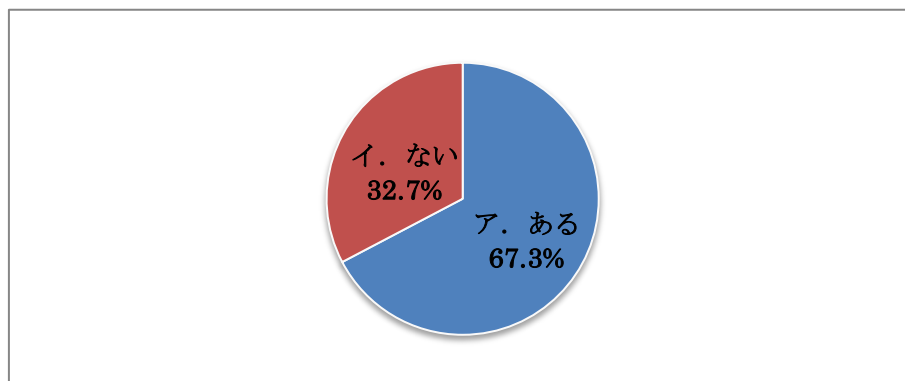
- ・生産地(主に中国産)(33)
- ・生鮮食品(肉、魚、野菜等)(12)
- ・冷凍食品(6)
- ・ポストハーベスト(収穫後に使用される農薬)(5)

問8

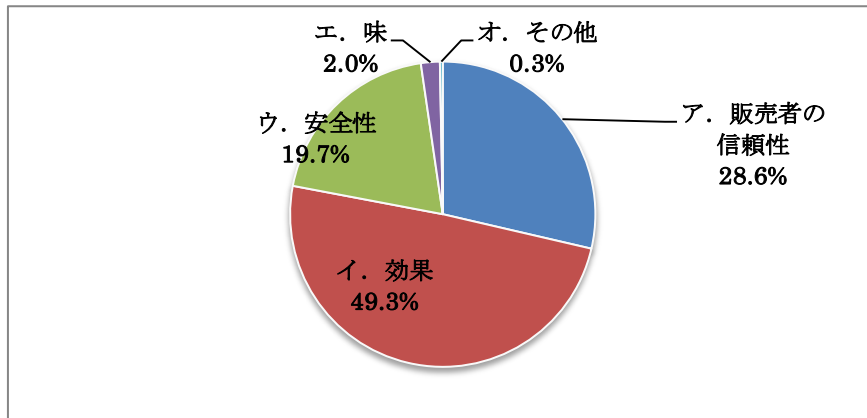
健康食品等について

(特定保健用食品、栄養機能食品、その他いわゆる健康食品)

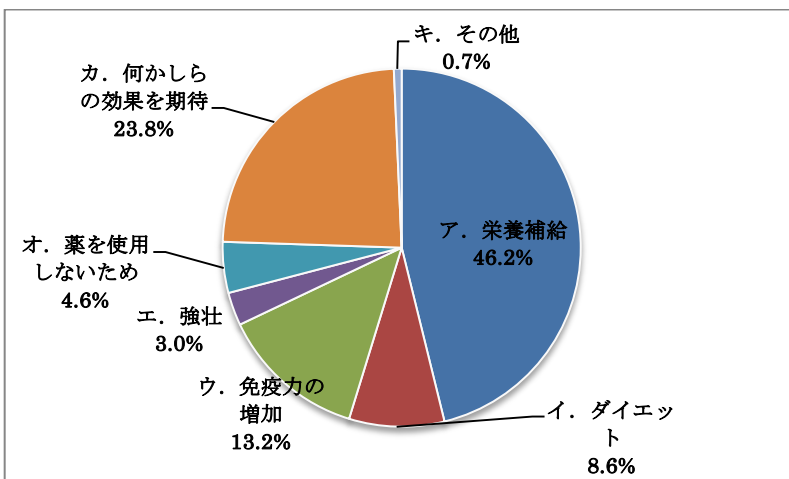
8-1 健康食品等をいままで購入したことがありますか？



8-2 健康食品等を購入したことがある方に伺います。
購入する際、1番重視することは何ですか？



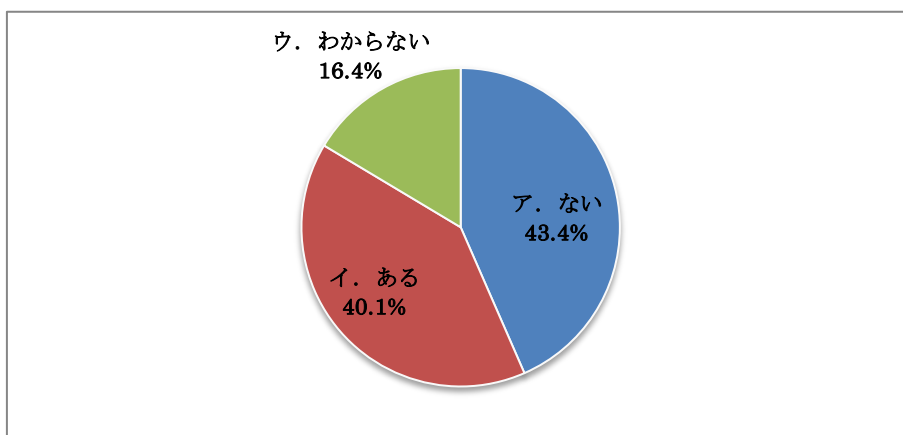
8-3 健康食品等を購入したことがある方に伺います。
購入する目的は何ですか？



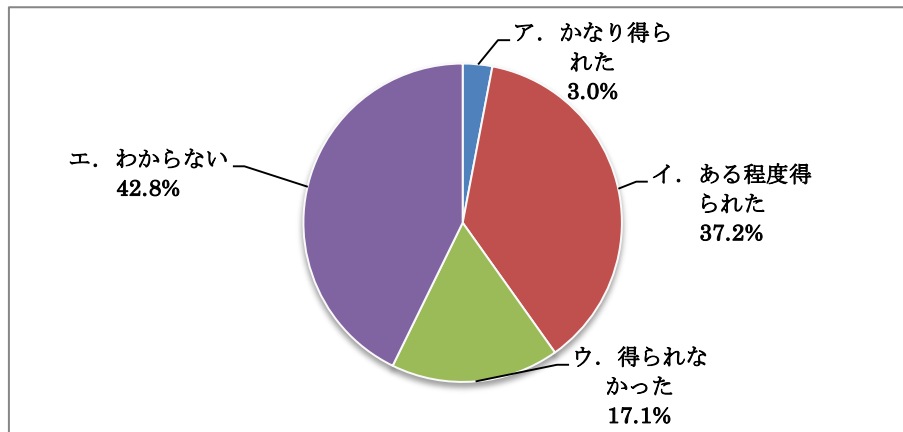
その他

- ・アレルギー
- ・筋肉増強(プロテイン)
- ・便秘解消

8-4 健康食品等を購入したことがある方に伺います。
安全性について不安を感じたことはありますか？



8-5 健康食品等を購入したことがある方に伺います。
期待した効果を得られましたか？

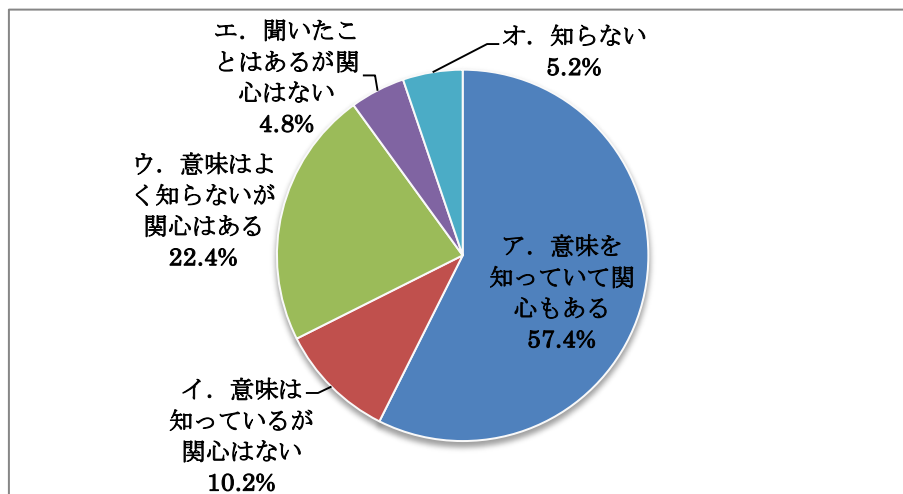


問9

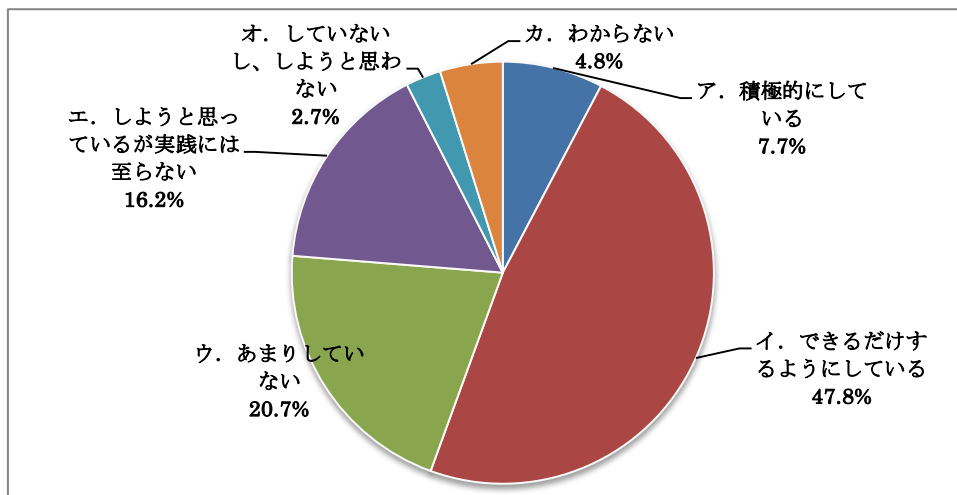
食育について

食育とは、誰もが健全な食生活を実践することで、健康で豊かな生活が送れるよう、食についての正しい知識を伝え、食を大切にする心を育てることです。

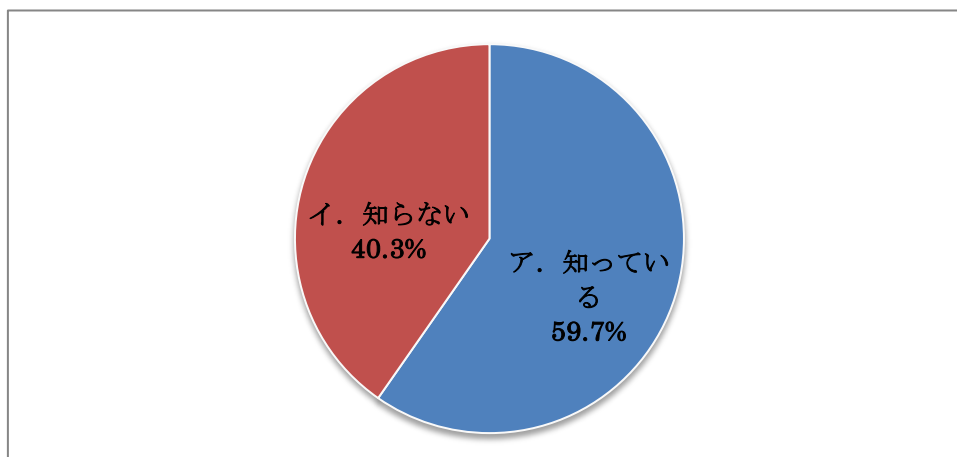
9-1 食育についての理解・関心度



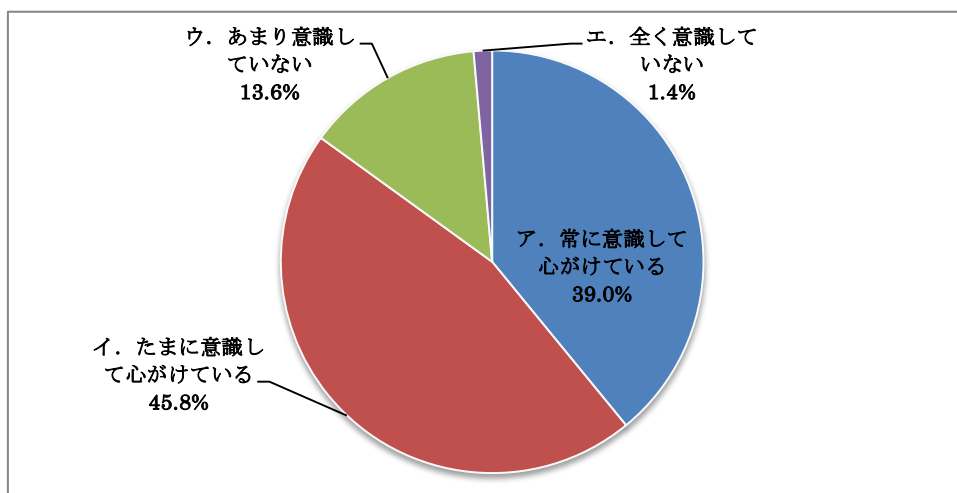
9-2 食育に関する何らかの行動



9-3 コマの形をした「食事バランスガイド」を知っていますか？



9-4 食事バランスを意識して、バランスの良い食事を心がけていますか？



問 10

食に関する自由意見

(流通、安全性、表示、自給率、地産地消、食品ロス、放射能問題 etc....)

- ◆ 東日本大震災で作付けできず、収穫が減りそうだが、農地法をもっと緩和し休耕地等を活用して自給率を上げていく取り組みをすべき。また、食品偽装も多く、抜き打ち検査等をして不正を防止してほしい。(40歳代/女性)
- ◆ 穀物を輸入する際に、カビなどの繁殖を防ぐために農薬を散布するといういわゆるポストハーベスト問題の実態や対処方法を知りたい。(60歳以上/男性)
- ◆ 1. 原発事故による放射能汚染された食品が出回っていないか心配。
2. 10年前とはだいぶ変わったが、過剰包装は改善の余地があると思う。
3. 収穫後、放置された野菜を見ると、規格外として流通してもらいたいと思う。(50歳代/男性)
- ◆ 食育は日々の家庭で親から子へ伝えられていくものだと思うので、あらためて「食育」とうたわず、健康とともに食生活が考えられる姿がベストだと思う。あわただしい現代に、食育という分野が生まれたのは、今何が大切なものか、反省する機会を与えてくれるためだと思う。(60歳代以上/女性)
- ◆ 加工食品、店頭で売っているおかず類等について、明確な表示がほとんどないため、買う気になれない。なぜ表示がないか疑問だし、表示を義務付けるべき。(60歳以上/男性)
- ◆ 時々ロータリーで朝市をやっていて、地元のもの新鮮で安い。もっとこういうものを各地でやってもらいたい。(30歳代/女性)
- ◆ 袋ごと買っても最後まで使い切れずに捨ててしまうことが多いので、一人暮らし、少人数家族のためにばら売りや小パック売りをお願いしたい。(60歳以上/女性)
- ◆ 子供ができてから食について意識しだし、できる限り安心・安全でバランスの良い食事を心掛けている。また、地域活性化も含め地産地消を推進していくのであれば、まずは地元で暮らす子供たちに健康かつ安心して食卓に出せる料理レシピを、県・市が率先して提案してもらえればと思う。(30歳代/男性)
- ◆ 船橋市はなんでも燃やすごみの処理から、リサイクルできるゴミ処理をもっと進められるのではないかと感じている。食品を買って生まれるごみがほとんどなので、これからも食と環境の向上をみんなで目指していきたい。(40歳代/女性)
- ◆ 現在、「食育」に関する習慣は失われている状況にあると思う。学校教育を含めて、地域における「食育」の指導(公民館などにおけるセミナー)を通じて、各世代に対して広く啓蒙する必要があると考える。この啓蒙と並行して、流通業が協業して「食育」に貢献する流通ラインを設けることができれば効果があると思う。(60歳代/男性)
- ◆ 日本は食料を輸入に頼っておきながら減反政策をとり、農業人口を減らしてきた。農政のあり方を改善し、食料自給率を高めていくべきである。一切の輸入穀物が途絶える様な事態になればやがては発展途上国以上の飢饉に陥ることになると思う。(60歳以上/女性)
- ◆ 農業だけで生計が成り立ち、若い世代が農家(漁業・畜産業も同じ)に憧れるような社会になればと思う。(50歳代/女性)

- ◆ 福島原発の事故から、放射性物質の拡散による「食品の汚染」が顕著になってきている。「風評被害」を助長するのは「あいまいさ」。信頼できる数値情報を、すべての商品に可視化することが、今消費者が一番求めていることだと思う。また、子供の給食に使う食材についても、慎重に吟味すべき。被災地を応援することで、子供に健康被害を与えることになっては本末転倒なので、検査は厳密にすべき。(30歳代/女性)
- ◆ 食の安全性が一番大切なことで、行政でも十分に管理すべきで、生肉の事件を聞き驚いている。消費者は安全であると信頼して、外食をしているのだからもっと徹底してほしい。(60歳以上/女性)
- ◆ コンビニなどで賞味期限を厳守するあまり食品を大量に廃棄していて、もったいない。自給率40%をもっと上げるために全国民の合意と努力が必要であるが、国は具体的な目標を設定して強力に推進してほしい。(60歳以上/女性)
- ◆ 地産地消が叫ばれる今日、千葉県産を意識することもあるが、どうも千葉県産は少し値段が高いと思い、つい他県産の安いものを選んでしまう。千葉県産の物は他県と比べてどこが優れているのか、栄養価はどのように違うのかなどを全面的にアピールしてあれば、手に取る頻度も自然と増えていくのではないかなと思う。(20歳代/女性)
- ◆ 私たちの年代では食べるものがなくても、四季にあった食べ物を三食食べていた。今は四季に関係なく品物が売っているので、季節にとられない時代になっていることが少し悲しくもある。(60歳以上/女性)
- ◆ 高齢化が進んでいる中で地元の商店街の果たす役割は大きいと思う。活性化のためには子供たちが喜び、明るいイメージを持てるようなイベントを行ってほしいと思う。(50歳代/女性)
- ◆ 食育とは、人間に不可欠なもので、昭和時代のシンプルであるかわり、栄養バランスのある食材を利用できるように、今の時代にも常に取り入れて実践していければと思う。
 - ま…豆類
 - ご…ごま
 - わ…わかめ、海藻類
 - や…野菜
 - さ…魚
 - し…椎茸、きのこ
 - い…芋類
 一人一人のモラルと知識と自覚、一日一日の大切なことを子供たちに意識してもらえるような教育が未来の食育に繋がっていくと思う。(50歳代/女性)
- ◆ 利便性、流通などを重視するあまり、安全性を無視して使われ続けている添加物などが多種多様にわたり、にもかかわらず捨てられている食料品は非常に多い。このようなことを改善するためには、余分なエネルギーや添加物を使わないで済むという意味で、自給率を高め、地産地消を進めることが必要だと思う。(60歳以上/女性)
- ◆ 船橋市内でも農地の宅地化が加速しており、離農している人が増えているように思う。継農できるように、農地の相続税は無税とする程度の大膽な政策があってもよいのではないかな。また消費者もコストとリスクのバランスを考え、リスク管理に必要なコストは適正に負担すべき。(40歳代/男性)
- ◆ 店頭に並べられる品々に生産者の顔がわかるようになっていて、私にとっては本当に嬉しい。生産者の苦労を思い浮かべながら料理をすることで安易に捨てられなくなり、食事が豊かになる気がする。(60歳以上/女性)

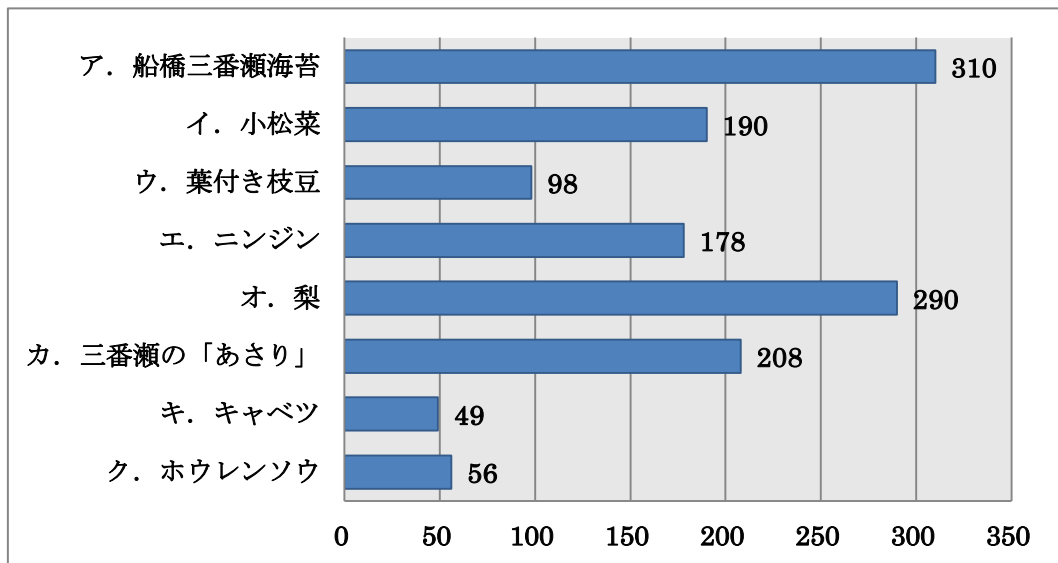
Ⅱ 船橋の農水産物について

市では、高品質で安全・安心な船橋産の農水産物を全国にアピールするため、ブランド化を進めています。これまで「船橋三番瀬海苔」「船橋産小松菜」「西船橋産葉付き枝豆」が船橋ブランドになりました。

問1

船橋の特産品について知っているものはどれですか？

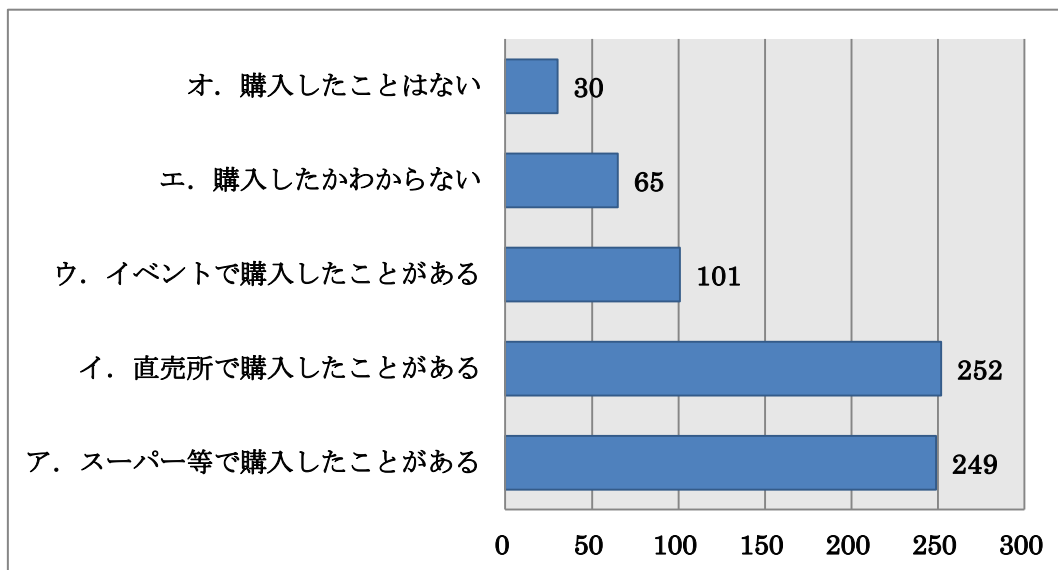
(複数回答可)



問2

船橋の特産品を購入したことがありますか？

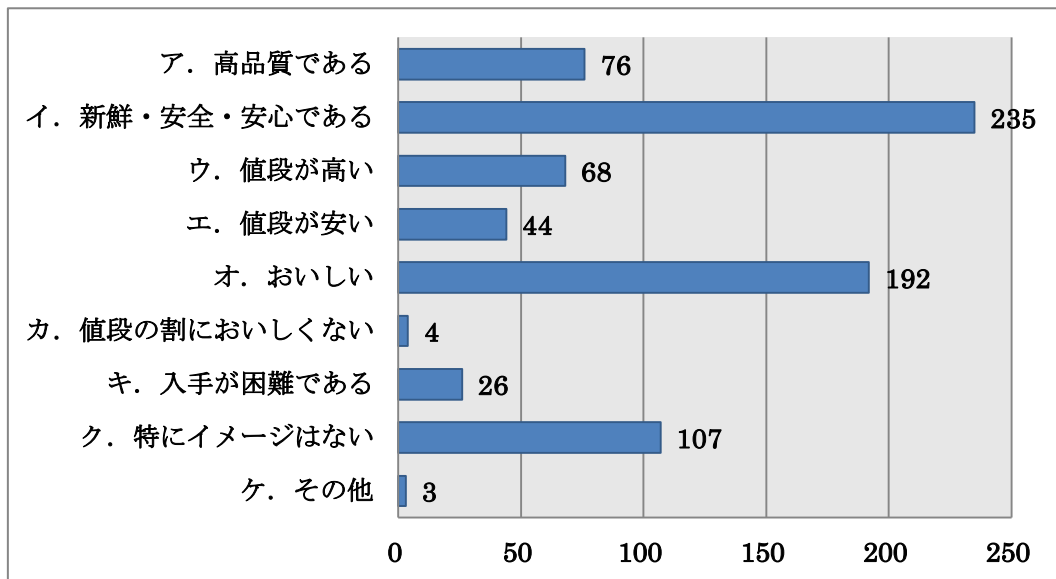
(複数回答可)



問3

船橋の特産品のイメージについて

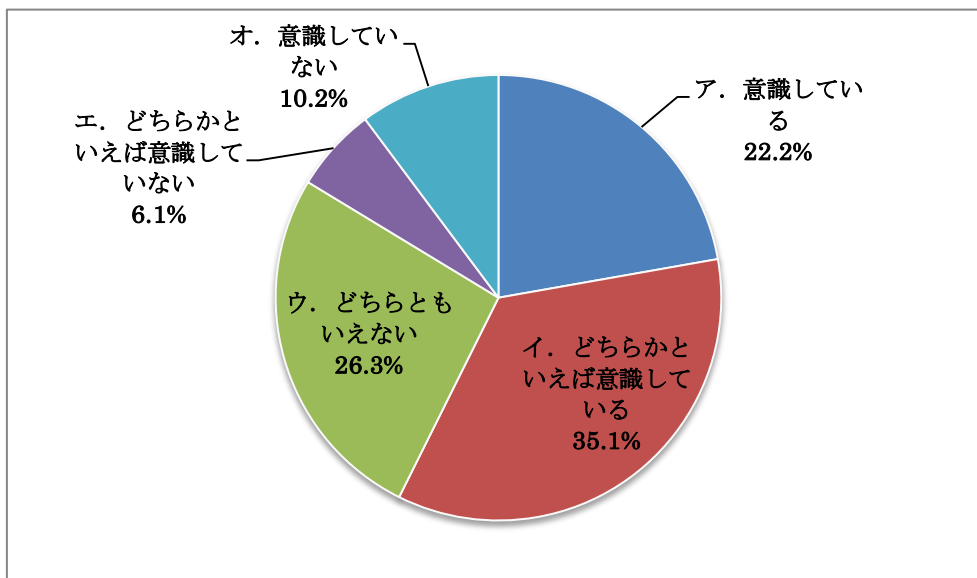
(複数回答可)



問4

地場食材を意識していますか？

注：地場食材とは、主に県内産とします。

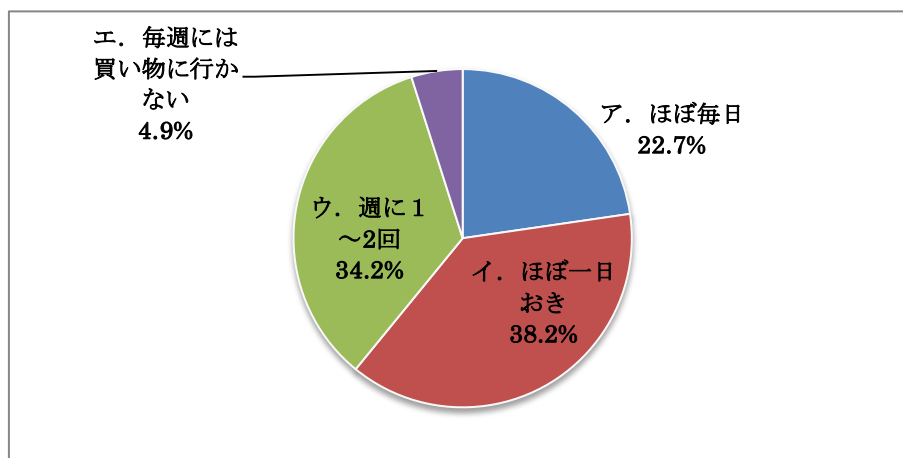


Ⅲ 消費と流通について

近年、中心街の空洞化や人口減、高齢化による商店街や地域交通の衰退、スーパーの撤退などさまざまな要因が絡み合い、食料品等、日常の買い物が困難な状況に置かれている人々が増えています。

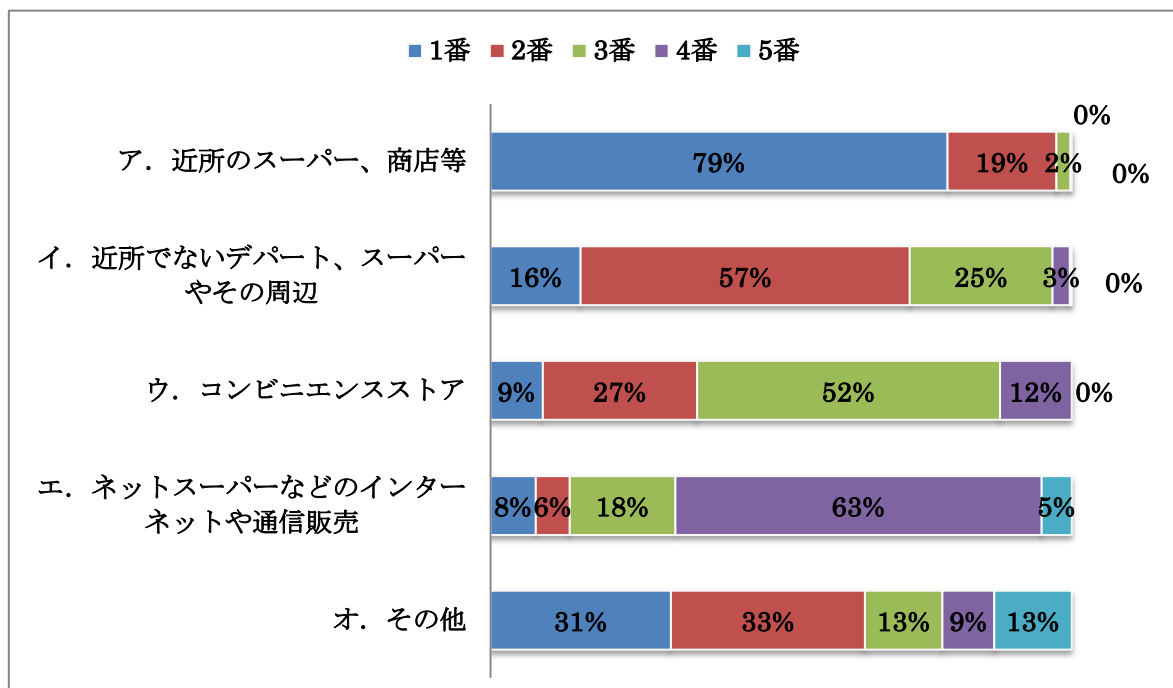
問 1

あなたは、週にどのくらいの頻度で食料品等の日常の買い物に行きますか？



問 2

あなたは、食料品等の日常の買い物はどこですることが多いですか？
下記の中で多い順に番号をつけて下さい。



※ 上記回答で1番行く場所について、理由を教えてください。

近所のスーパー、商店 (338)	近所でないデパート、スーパー、 その周辺 (52)
<ul style="list-style-type: none"> • 近くて便利 (196) • 品数が多い (68) • 安い (36) • 買いなれている (17) • 安心、安全 (7) 	<ul style="list-style-type: none"> • 品数が豊富 (15) • 仕事帰り (10) • 駐車場がある (4) • 安い (4)
コンビニエンスストア (24)	インターネットや通信販売 (12)
<ul style="list-style-type: none"> • 近い (8) • 手軽 (3) • 職場が近い (3) • 24時間営業 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> • 配達 (6) • 余分なものを買わない (2) • 買い忘れがない (1)
その他 (14)	
生協 (14)	
<ul style="list-style-type: none"> • 宅配で便利 (10) • 安全性 (3) 	

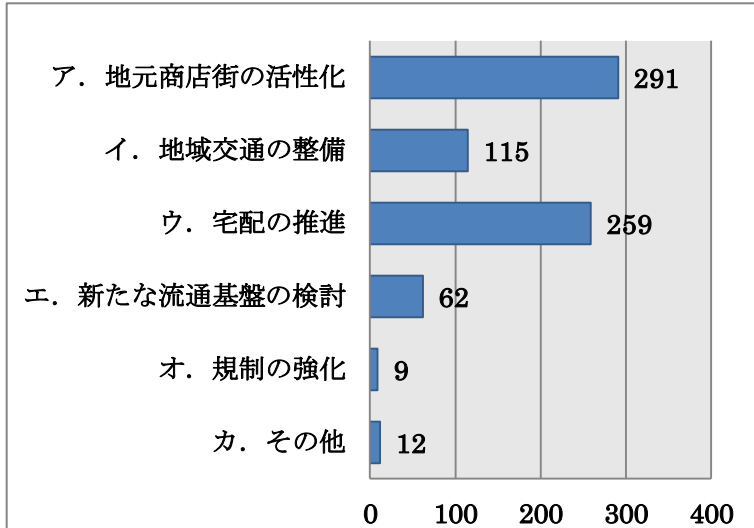
その他の買い物場所

- 産地直売所
- 専門店(肉・魚等)

問3

今後、高齢化がさらに進んでいくなかで、日常の買い物を支障なくできるためには、何が必要と考えますか？

(複数回答可)



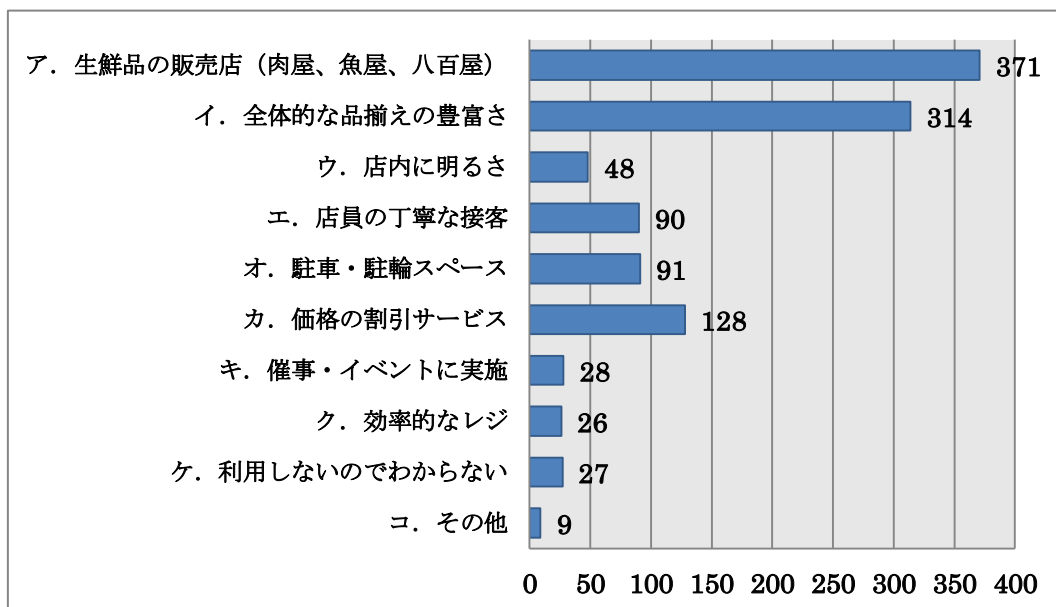
その他

- ・御用聞き
- ・地域の交流

問4

地元の商店街に求めるものは何ですか？

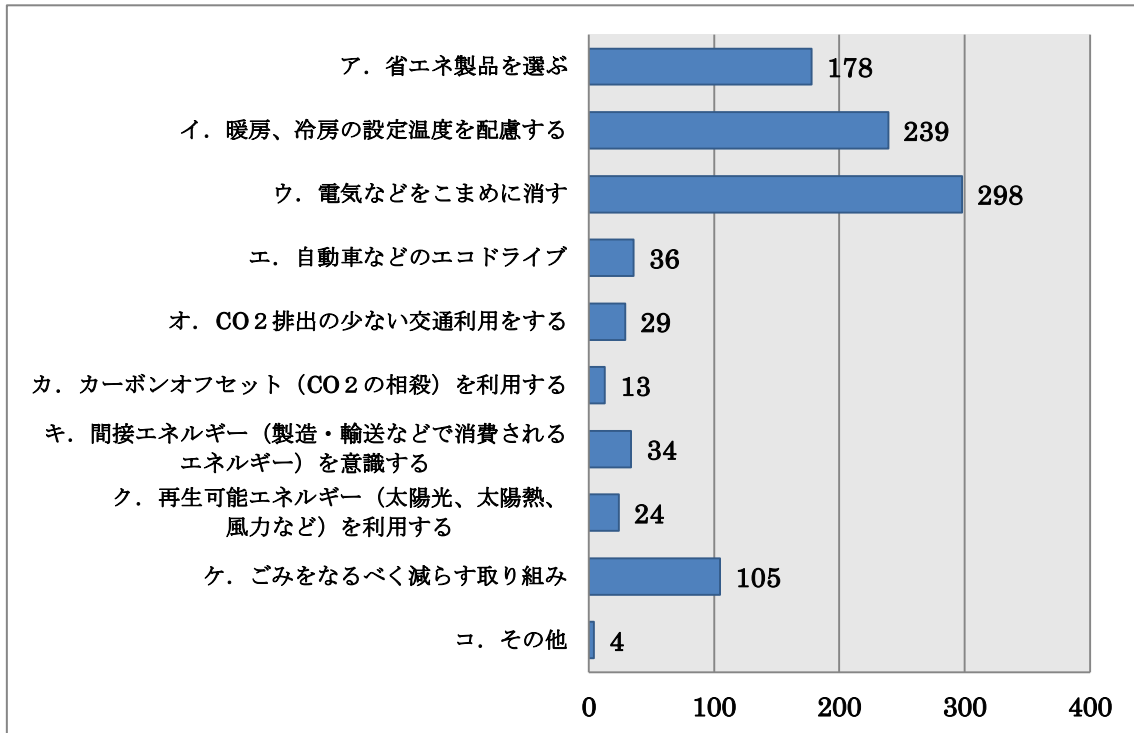
(上位3個まで)



Ⅳ エコライフについて

問1

地球温暖化防止に向けてあなたが特に取り組んでいる（または取り組もうとしている）ことは何ですか？
（上位2個まで）

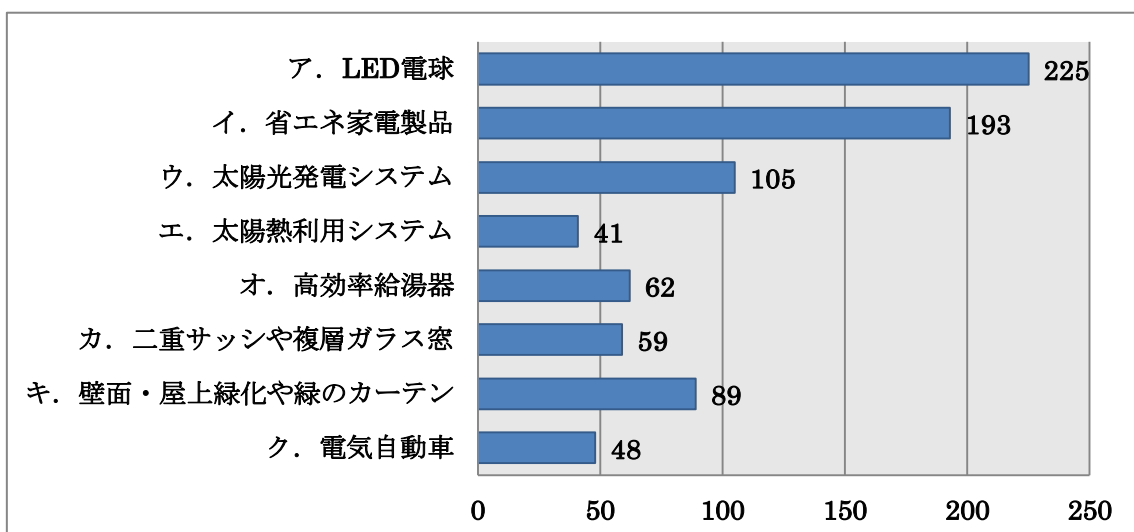


その他

- ・グリーンカーテン
- ・自転車

問2

これからあなたが使ってみたい、または関心があるものを選んで下さい。（上位2個まで）



問3

グリーンコンシューマーについて

「グリーンコンシューマー」とは、買い物をするときに、できるだけ環境に配慮した製品やお店を選ぶ消費者のことをいいます。

以下のグリーンコンシューマー10原則で、あなたはいくつ当てはまりますか？
(あてはまるものすべて)

